



私の召命を生きる

院長 山中淳子

昨年10月、聖マリア病院は設立75周年を迎え、振り返りのために記念誌を作成しました。題名は「私たちの召命」としました。召命とは「神さまからの呼びかけ」という意味です。

今の私の存在にはどんな原因や理由があるのでしょうか。なぜここにいるのか、なぜこの仕事をしているのか、私の周りを囲んでくださっている人たちとなぜ巡り会ったのか。強く切望し、懸命に努力して辿り着いたということもあるでしょう。逆に偶然の出会いや、思わぬ出来事との遭遇があり、それをきっかけに今に導かれたということもあるでしょう。すべて自分が計画した通りに歩いてきた、とは言えないことも多いかも知れません。そのようなことを含めて自分の人生を俯瞰してみると、すべての出来事や出会いが今の自分を成しており自分にとって必要だったのだと感じます。それを神さまからの呼びかけと捉えることもできます。生きていくために私たちは多くを頂いています。能力や仲間、助け手、健康、時間、時には窮乏の中で教えられる目覚め、それらはすべて召命に応える

ために与えられていると考えることができます。過ぎた4月21日はカトリック教会では「世界召命祈願日」でした。この日に当たり教皇フランシスコは「召命に応えることは押し付けられた義務ではなく、むしろ私たちの内にある幸福への望みをかきたてる最も確かな方法です」とおっしゃっています。（2024年4月21日カトリック新聞より）

聖マリア病院記念誌の副題は「病める人と共に75年」でした。私に呼びかけられている神さまに応える時、落ち着いた幸せを味わうことができると思います。その呼びかけの声を聞き分けられますように。



院内トピックス

令和6年度診療報酬改定に関して各部署で対応を



新年度の始まりにあたり、病院長からのあいさつと新入職員の紹介がありました。今年度は診療報酬改定の年になっており、国の方針に対して、地域の状況を踏まえつつ病院として対策を立てる必要があります。大きな工事等もあり、一致協力することを確認しました。

エレベーター 改修工事終了

4月6日から始まったエレベーターの改修工事は約2週間の工期を順調に終え、4月22日午後より新しいエレベーターとなって運転再開しました。工事期間中は、大変なご不便をおかけしました。皆様のご協力に感謝いたします。



■5階職員食堂のスペースの一角に機材置き場が準備され、4月5日午後より機材の運び込み作業が始まりました。作業中の事故やケガの無いように願いました。



■エレベーターの全面停止により、作業員の方も道具や機材を階段で運びます。騒音や振動は思っていた以上に少なく、療養生活への影響は最小限でした。



■エレベーター停止中の患者さんの検査や入退院時には、職員が8人がかりで階段を搬送しました。工事前には担架で運ぶ練習も実施しました。

寄贈された絵本が本棚に並びます

コロナ禍で、しばらくの間外来の本棚を閉鎖していたのですが、今年度より再開の準備を進めています。コロナ渦中に寄贈された絵本もあります。お楽しみに。



久留米聖マリア病院からの研修医をご紹介します



境 悠作 先生

Sakai Yusaku

来島初日に、見知らぬお兄さんに落とし物を届けていただき、早速五島の皆様の親切さに触れました。五島が大好きになれそうです。これから主治医として患者様の診療に取り組み、皆様の力になれるよう励みたいと思います。福岡とは大きく違った環境での仕事を楽しみます。

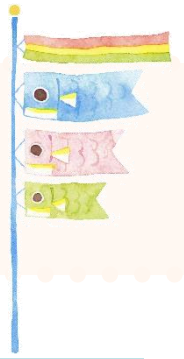
- ◇出身地…福岡県
- ◇趣味・特技…筋トレ、登山、カメラ
- ◇志望科…整形外科
- ◇研修期間…令和6年4月21日～6月15日

お知らせ

5月の行事

5月24日(金) 防火訓練

5月25日(土) 聖母月の集い



創刊より毎月発行していた機関紙マリアの風及びマリアの風 web ですが、諸事情により次回から隔月発行とさせていただきます。次回は7月1日を予定しています。よろしくお願いいたします。

今月のイチ押し



空き地に咲いた小さな紫の花、マツバウンランという名前だそう。夕方の散歩の帰り道、空も同じ淡い紫色になりました。

編集者より

4月が終わり、1年の3分の1を過ごしたことになります。早いものです。最近図書館で、「心が整う、わたしの習慣」という雑誌を目にしました。何かと多忙な日々、心身の疲れが溜まった時やモヤモヤした気分を他の人はどのように乗り越えているのでしょうか？大体の人が言うのは、まずは体をケアすること、そして丁寧に生活すること、ダメな自分も受け止めることでした。普段の生活を見直すためにも、連休を有効に活用したいと思いました。

(編集者)